

わが市わが町

「川崎市」

川崎市は神奈川県の北東部に多摩川に沿って位置し、北は多摩川を挟んで東京都に、南は横浜市にそれぞれ隣接し、西は多摩丘陵の一部、東は東京湾に臨んでいます。

近世には武蔵国橘樹郡（現在の麻生区の一部は都築郡）に属し、近代に入り1889年に町村制が敷かれ川崎町が成立し、1924年に2町1村が合併し市制が施行され、その後も市域は多摩川の上流に向かって、旧町村を合併し拡大されました。1939年に現在の市域がほぼ確定し、南東から北西へ延長約33kmにわたる細長い地形となっています。また、北西部の丘陵地を除いて起伏が少なく、神奈川県下でも比較的平坦な地域となっています。

このように川崎市は、自然的、地理的条件あるいは市域を分断する形で通過している鉄道、道路網と相まって南東部（臨海部）の工業地域と、北西部（内陸部、丘陵部）の住宅地域という性格の異なった地域が結合連担して都市が形成されています。

北西部の丘陵地はもともと、薪炭の生産を目的とした広葉樹林（クヌギ、コナラ、ヤマザクラ等）の里山とそれに介在する普通畑や桑畑、谷戸の小川と水田、丘の裾に張り付く民家からなる、武蔵野の里地里山風景が昭和30年代まで残っていましたが、その後、ニュータウン開

発や土地改良事業による土地基盤整備が進み、こうした風景が残るところは人為的に保存している緑地などに限られます。

市街化を抑制すべき区域である市街化調整区域は市域の12%を占めますが、多摩川の河川敷を除くと麻生区の縁辺部に連担して存在しており、そのうち、黒川上、黒川東、岡上、早野地区に農業振興地域の指定がされています。



大型農産物直売所セレスアモス

1970年代から1980年代にかけて土地改良事業による農業生産基盤整備が完了していますが、農業者の高齢化や後継者不足により遊休農地の増加や農地の効率的な利用がされていないことから、本市では総合計画に農業公園・交流促進型地域農業活性化事業を位置づけ、大都市ならではの日帰り型グリーン・ツーリズムを核とした農業振興を推進し、その中核施設として大型農産物直売所セレスアモスが平成20年4月、麻生区黒川に開業しました。



大型農産物直売所セレスアモス店内

このセレスアモスをはじめとしたJAグループの大型農産物直売所は出荷者が自ら販売価格を決定して、JAに販売を委託するため、少量でも出荷することができます。これまで販売先がないため生産を休止していた農業者も農地を有効利用するようになり、地域内の遊休農地の大幅な減少、また、農業者の生産意欲向上といった具体的な効果が上がっております。



黒川農場本館

さらに、平成24年4月に「未来型エコシステム」「里山共生システム」「地域連携システム」を柱とする、明治大学黒川農場が開場し、学生の農場実習や試験研究に使われているとともに、区域面積の半数強を占める斜面緑地や小谷戸（しょうやと）を活用した調整池兼自然生態園を観察や里山の伝統的管理作業体験のフィールドとしています。収穫物のセレスアモスでの販売や収穫祭への出展など、市・JAとの連携は少しずつ進んでいます。

（川崎市農業振興センター
農業振興課 米川源人）

